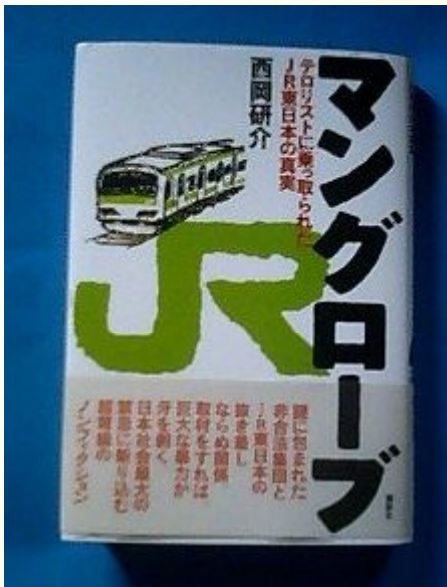


管理者による革マルキャンペーンが発覚！



9月1日、新幹線大阪仕業検査車両所において、管理者が『マングローブ』を社員に「読め」と貸与していた事実が発覚しました。この管理者は同所の列車科長で、社員に貸与した事実を認めています。

この『マングローブ』とは、西岡研介記者が執筆し、講談社から発行された単行本で、「テロリストに乗っ取られたJR東日本」として、2006年7月15日から24回にわたり連載された『週刊現代』の大型長期連載の単行本化なのです。

『週刊現代』裁判の判決を認知していた科長の行為は確信犯だ！

西岡記者の『週刊現代』の記事は、公安警察からの情報を取り入れ、松崎氏に関し①革マル派最高幹部、②列車妨害を自作自演し指導、③組合費の横領や私物化、④JR東日本を支配しているなどの記述で、毎号、顔写真を『週刊現代』に掲載しました。

昨年10月26日、東京地裁は、松崎氏が西岡記者と発行元の講談社を相手取り損害賠償と謝罪広告を求めていた裁判の判決で「列車妨害に関与した印象を与える記事には真実性や相当性もなく不法行為である」など記事の信憑性をことごとく否定し、被告らに550万円の支払いを命じる判決を下しました。列車科長はこの裁判の判決を知っていたことも認めているのです。まさに、確信犯であり悪質なキャンペーンの実行者なのです。

首謀者は誰だ！公安警察や嶋田一味を操れる人物とは誰だ！

『週刊現代』は車内吊広告や新聞広告で大宣伝を行いました。さらに、組織破壊者＝嶋田一味も記事に登場させるなど、その販売形態や記事内容は単に1人の記者の能力を遥かに超えていると言えます。では、一体誰がプロモートしたのでしょうか。JR東海葛西会長は現在も国家公安委員であり、会社は元より警察権力にもマスコミにも力を発揮できる人物として知られているのは周知の事実です。きれいにピースがはまりませんか。

東京地裁が550万円の損害賠償を命令！
『週刊現代』裁判で松崎明氏に勝利判決！